

ささえ愛

北宇和高等学校
人権委員会
2023 7月号

2020年ユニセフの調査から

人権・同和教育課 倉田 敦

なんとなくつけていた子どもの日の特番らしいTV番組の中で「2020年ユニセフの調査で、子どもの精神的幸福度が日本は38位中の37位」と繰り返されていました。

え～、どうなんですかー？ えー、なんで？

とってしまいました。ほぼゲッポ？って、そもそも精神的幸福度って何？って、いろいろなクエスチョンが頭に残りました。かつてのJapan as NO.1からは随分遠ざかっただろうけど、それでもまだまだ経済的に豊かな国なのに、私が子どものころよりもずっと色んな物やおいしい食べ物があふれている国なのに、何でかなあ？と。

で、この疑問は現役に聞くのが一番だと考え、部活動で二人の高校生に投げかけてみました。そうすると、「昔の人は、自分たちのことが普通でその中で不幸だとは思わなかった」とか、「日本人は謙虚だから10段階で言えば、まあ真ん中に○をつけるのではないか」とか、「日本人はネガティブな考え方をする人たちなのでそんな結果になってしまうのではないか」とか、・・・「ありそうな気がする。かなりする。」と思える答えを返してくれました。特に、「真ん中に○をつける」は、私もいろんなアンケートでよくやっているなあと思いました。

では、この調査を専門家がどう分析しているのか検索してみました。「すぐに友達ができる」と答えた子どもの割合は日本は2番目に低いそうです。いじめを受けている子どもの方がそうでない子どもより生活満足度が低いそうです。学校への帰属意識が高い子どもの方が、学力も生活満足度も高い。地域に十分な遊び場があると答えた子どもの方がそうでない子どもに比べてより幸せと感じている。また、日本は困った時に頼れる人がいると答えた人の割合が最も低い国の一つだそうです。

となるとやはり、「**人間関係が大事だ**」ということになるのだと思います。家や学校での人間関係が良好で、そこが子どもにとっての居場所になっていけば、「真ん中に○をつける」の真ん中の位置も数値が高い方にずれてくるのかもしれない。

とはいえ、私の場合、よりよい人間関係を作っていくことが難しいと思うことがあります。よりよい人間関係ニアリーイコールお互いを尊重し合う関係という事になるのかもしれない。お互いを尊重し合うためには、お互いのことをよく知り合うことも大切だと思います。

と、まとまりなく書いてきました。が、よりよい人間関係を作っていくことは、私たちが幸せを感じるための宿題かもしれないと思います。

*人権日より「ささえ愛」では皆さんの感想、人権についての考えを募集しています。

-----切り取り線-----

感想・意見 ()年()組



もう7月だけど

「6月はプライド月間」って知ってた。



LGBTQ や性の多様性を考える期間だ。



でもさ、みんなマイハティーの部分ってあったいしない？



みんな少数派の部分があるのなら、いろんな少数派がつながっている社会がいいね。



いいね。お互いを大切にすれば、友達になるんだ。



みんな友達になってつながっていけば
マジョリティーだよ



マイノリティーが生きやすい学校や社会は、差別を許さない学校や社会で、
そんな学校や社会はすべての人が生きやすい学校や社会です。

